

中古品の見えない危険に注意 ～製品の情報をしっかり確認～

製品の再利用（中古品^{※1}）は、限られた資源の有効活用とともに廃棄物の発生抑制につながり、環境への負荷の少ない持続可能な社会の形成に貢献します。近年は、インターネットオークションやフリーマーケットサイト（フリマサイト）、また、それらのサービスを利用できるスマートフォン用アプリの普及により、個人間の物品の売買が活発に行われています。一方で、入手した中古品がリコール対象製品と気付かずに使用したり、使用方法や設置方法を知らずに使用したりすることで事故が発生しており、注意が必要です。2016年から2020年までの5年間にNITE（ナイト）に通知のあった製品事故情報^{※2}のうち、中古品の事故は合計321件発生しています。そのうち死亡事故は10件（11人）、重傷事故は14件（14人）です。

中古品を入手する際には、リコール対象製品でないことの確認や、製品の修理・改造、不具合の有無、製造年などの情報を確認してください。また、中古品を提供する側も、修理・改造した製品やリコール対象製品などは提供しないこと、製品を安全に使用するために必要な情報を伝えることなどが重要です。入手する側、提供する側のそれぞれで気を付けるべきポイントを確認し、事故を未然に防ぎましょう。

■事事故例

- 譲渡された電気ストーブの電源コードが途中で切断され、別のコードを接続する改造が行われていたため、接続部が異常発熱し、出火した。
- 譲渡されたコーヒーマーカーがリコール対象製品であり、内部配線接続部の不具合により、接触不良が生じて異常発熱し、出火した。
- インターネットオークションで入手した電気掃除機を充電中、取り付けられていた非純正バッテリーが内部ショートを起こして焼損した。
- 譲渡されたガス瞬間湯沸器のガス接続工事を資格を有していない使用者が行った際に、ガス漏れ防止用のパッキンを使用しなかったため、接続部から漏れたガスに引火して焼損した。
- 中古住宅に設置されていた換気扇を使用中、長期使用（16年）により、電子部品の絶縁部分が劣化し、漏電により発火した。
- 譲渡された乳幼児用いすの腰ベルトが正しく取り付けられていないことに気づかず、そのまま使用していたことにより、腰ベルトで幼児の頸部が圧迫され死亡した。



中古ガス瞬間湯沸器の接続部から漏れたガスに引火（不適切な設置工事の再現実験）

■中古品の気を付けるポイント

- 消費者自らが修理・改造した製品は提供しない／入手しない。
- 製品がリコール対象製品でないことを確認する。
- 非純正バッテリーの取り付けの有無を提供先に伝える／提供元に確認する。
- ガス器具の取り付けや、エアコン取り付けに伴う電気工事は、有資格者、専門の事業者へ依頼する。
- 破損や変形、異常動作などの不具合のある製品は使用しない。
- 入手した際には必ず取扱説明書で使用方法や付属品が正しく取り付けられているか、汚れがたまっていないか、消耗品の交換が必要かどうかを確認する。

（※1）本資料では、中古品販売店で購入したもの、インターネットオークション及びインターネット通販で購入した中古品、譲渡された物、中古住宅などに既設で設置されていたものなどを「中古品」と呼ぶ。

（※2）消費生活用製品安全法に基づき報告された重大製品事故に加え、事故情報収集制度により収集された非重大製品事故やヒヤリハット情報（被害なし）を含みます。

1. 中古品の事故

1-1. 中古品の事故の発生状況

1-1.1. 年別 事故発生件数

2016年から2020年までの中古品の事故321件について、図1に「年別 事故発生件数」を示します。火災を伴う事故が266件あり、全体の83%となっています。

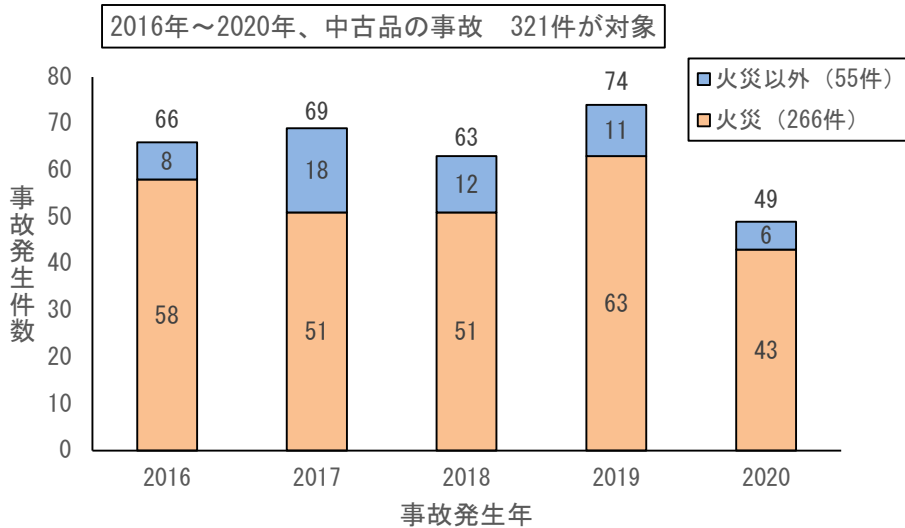


図1 年別 事故発生件数

1-1.2. 品目別 事故発生件数

2016年から2020年までの中古品の事故321件について、図2に「品目別 事故発生件数」を示します。家庭用電気製品の事故が、234件（73%）と最も多く発生しています。

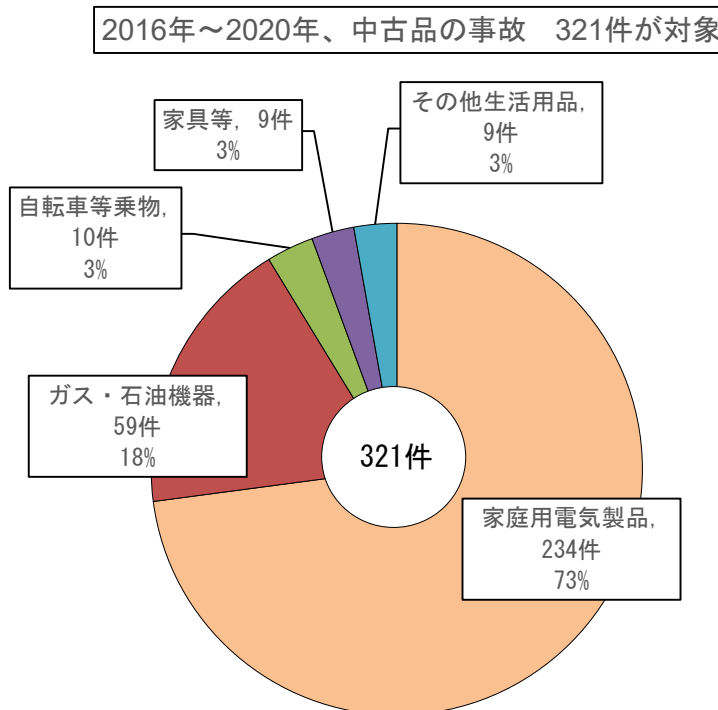


図2 品目別 事故発生件数

1-1. 3. 被害状況

2016年から2020年までの中古品の事故321件について、図3に「被害状況」を示します。

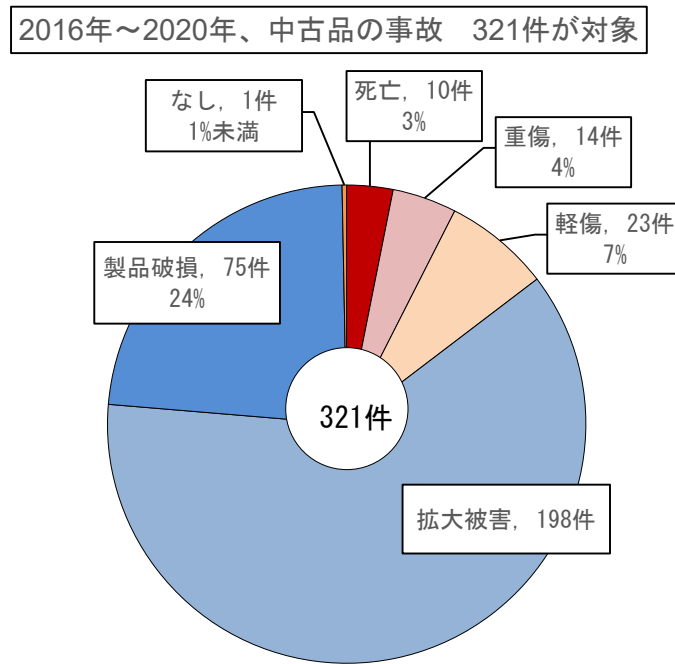


図3 被害状況

1-1. 4. 入手方法別 事故発生状況

2016年から2020年までの中古品の事故321件について、図4に「入手方法別 事故発生状況」を示します。

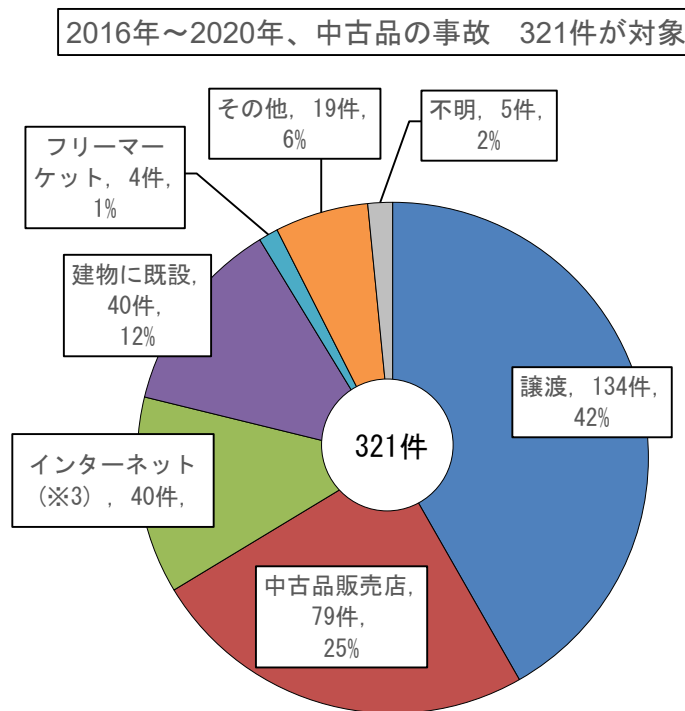


図4 入手方法別 事故発生状況

(※3) インターネットには、インターネットでの中古品の購入、インターネットオークション、フリマアプリなどを含む。

1-1.5. 製品別の火災事故発生状況

2016年から2020年までの中古品の事故321件うち、発生件数の多い15製品について、図5に「製品別の火災発生状況」を示します。図5では31件と最も事故発生件数が多い中古パソコンの事故のうち22件はノートパソコンに搭載されたリチウムイオンバッテリーの発火によるものとなっています。なお、パソコンは、環境省の調査報告書^{※4}によると、中古品購入者数が18品目^{※5}中3番目に多く、中古品の中でも人気のある製品となっています。

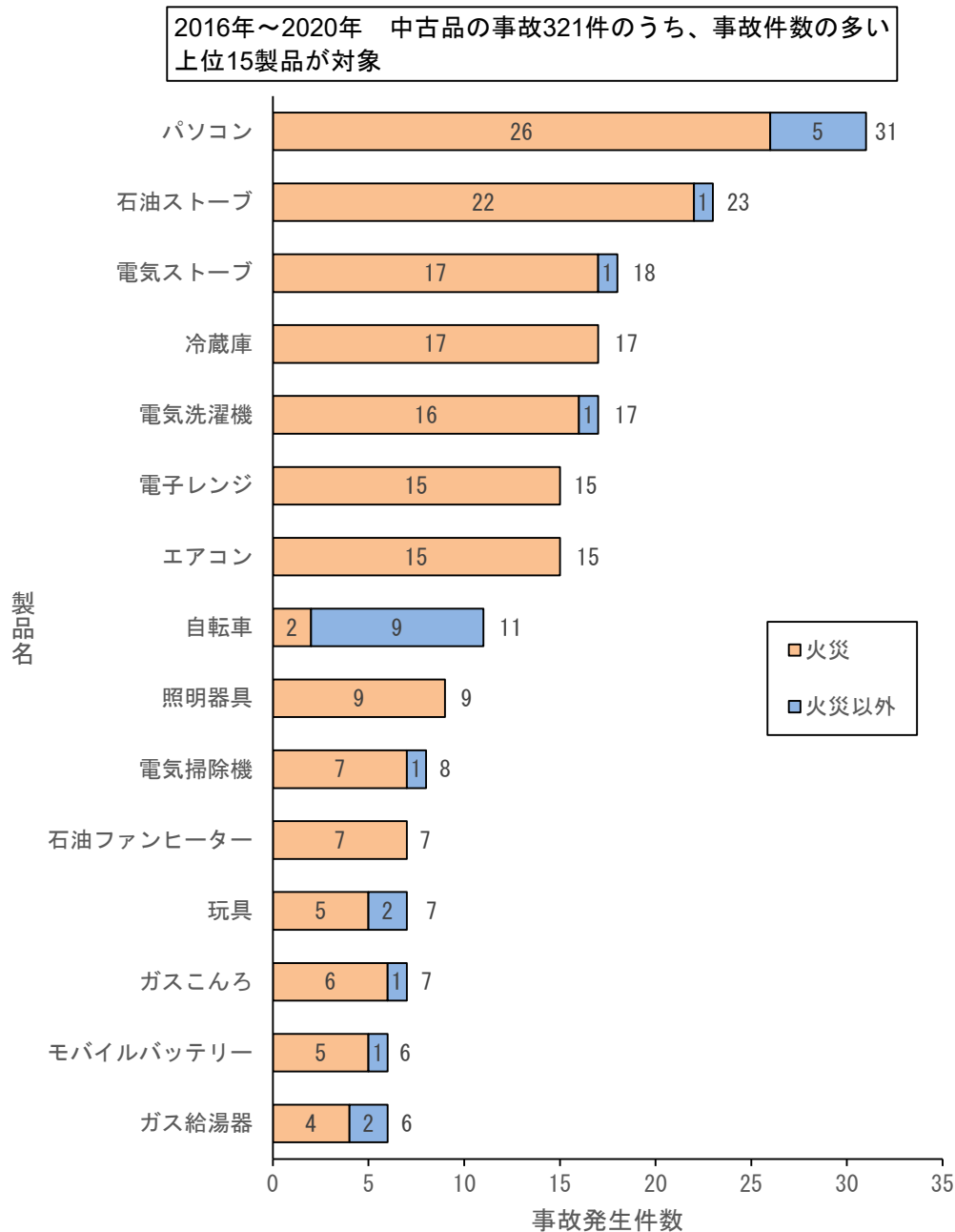


図5 製品別の火災発生状況

(※4)環境省 平成30年度リユース市場規模調査報告書

(※5)全21品目から書籍、ソフト・メディア類、ブランド品を除く

1-1.6. 要因別の事故発生状況

中古品の事故のうち、中古品であることが事故の要因となったと考えられる81件の要因別の事故件数を表1に示します。

表1 中古品の事故の分類

中古品の事故の分類	事故件数
中古品がリコール対象製品だったもの	33
経年劣化などの不具合があったもの	17
入手以前の修理不良、改造が要因となったもの	12
誤った組立がされた状態、掃除など手入れが必要な状態で入手し、気付かず使用	7
入手した中古品に非純正バッテリーが装着されていたもの	6
欠品や不備に気付かずに使用者が設置・工事したもの	6
総計	81

1-2. 中古品の事故事例

1-2.1. 修理・改造された製品の事故

(修理不良のガスこんろから発火)

事故発生日 2012年9月(長野県、20歳代・男性、軽傷)

【事故の内容】

譲渡されたガスこんろを使用中、本体及び周辺を焼損する火災が発生した。

【事故の原因】

以前の所有者がガスこんろを分解・組み立した際、O(オー)リング^{※6}が損傷し、ガス漏れの状態となっていたために、使用者が点火した際に漏れたガスに引火して事故に至ったものと考えられる。

なお、取扱説明書には、「工具を使用しての分解修理を禁止する」旨、記載されている。

【SAFE-Lite 検索キーワード例】

ガスこんろ、修理

(※6) ガス機器の燃料供給接続部分に使用される断面が円形の環型をした燃料漏れ防止用ゴムパッキン。

(改造された電気ストーブから発火)

事故発生日 2017年4月(愛知県、年齢・性別不明、拡大被害)

【事故の内容】

譲渡された電気ストーブ付近から出火し、周辺を焼損した。

【事故の原因】

電源コードを途中で切断し、別のプラグ付コードをねじり接続したため、接続部で接触不良が生じて異常発熱し、焼損したものと考えられる。

なお、電源コードがねじり接続されていた経緯は特定できなかった。

【SAFE-Lite 検索キーワード例】

電気ストーブ、改造



電源コードのねじり接続部から発火

中古品の気を付けるポイント①

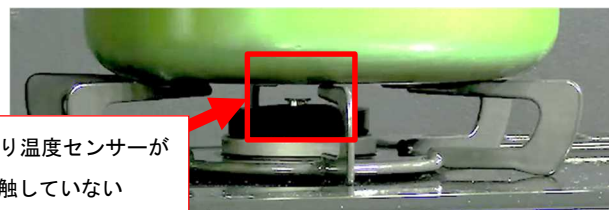
○製品の修理や改造の履歴に注意する。

消費者（使用者）自らが修理や改造した製品を譲渡したり売却したりしないでください。修理・改造された箇所やその際にできた損傷などが動作の異常を起こし、事故になるおそれがあります。修理・改造されたことが分かった場合は、入手しないでください。中古品を入手した後に分かった場合は、使用を中止してください。また、外見では確認しづらい製品内部などの箇所が改造されていたことによる事故も発生しています。使用前に取扱説明書の確認とメーカーへの点検依頼を推奨します。中古品を使用していて、動作が不安定、異臭・異音がするなどの異常が認められた場合には、すぐに使用を中止してください。

また、製品を修理したり改造したりしないでください。修理が必要な場合は、メーカーの相談窓口などに相談してください。



コードの改造



改造により温度センサーが
鍋底に接触していない

ガスこんろ安全装置の改造

一般社団法人日本ガス石油機器工業会（JGKA）と連携し、改造されたガスこんろに関する注意喚起動画を作成しました。

<https://www.nite.go.jp/jiko/chuikanki/poster/nenshou/2021102801.html>

協力：一般社団法人日本ガス石油機器工業会（JGKA）

1-2.2. リコール対象製品の事故

(リコール対象の電子レンジの事故)

事故発生年月日 2019年7月(静岡県、年齢・性別不明、製品破損)

【事故の内容】

譲渡された電子レンジを使用中、本体を溶融する火災が発生した。

【事故の原因】

リコール対象品の電子レンジのドアの開閉を検知するスイッチの製造不良により、接点部でスパークが発生し、火災に至ったものと考えられる。

【SAFE-Lite 検索キーワード例】

リコール

(リコール対象のコーヒーメーカーの事故)

事故発生年月日 2020年7月(愛媛県、年齢・性別不明、拡大被害)

【事故の内容】

譲渡されたコーヒーメーカーを使用中、本体及び周辺を焼損する火災が発生した。

【事故の原因】

リコール対象品のコーヒーメーカーの内部配線接続部に製造時の不具合があったため、接触不良が生じて異常発熱し、出火に至ったものと考えられる。

【SAFE-Lite 検索キーワード例】

リコール

中古品の気を付けるポイント②

○製品がリコール対象製品か確認する。

中古品の場合、新品購入時の所有者ではないため、メーカーからのダイレクトメールが受け取れないなど、リコール情報が届きにくくなるおそれがあります。

入手する側も提供する側もリコール対象製品でないことを確認してください。入手した製品がリコール対象製品だった場合は、使用せずに製造事業者などに連絡してください。また、リコール対象製品は絶対に提供せず、製造事業者などに連絡してください。

事業者、消費者庁、経済産業省及びNITEなどはホームページでリコール情報を掲載しています。お持ちの製品がリコール対象製品かどうかを確認することが可能です。

消費者庁のリコール情報サイトにおいて、最新のリコール情報や、キーワードによるリコール情報の検索を行うことができます。

また、「リコール情報メールサービス」に登録することでリコール情報が提供されます。



<https://www.recall.caa.go.jp/>



1-2.3. 非純正バッテリーの事故

(電気掃除機の非純正バッテリーから発火)

事故発生年月日 2019年9月(大阪府、50歳代・男性、拡大被害)

【事故の内容】

インターネットオークションで購入した中古品の電気掃除機を充電中、本体及び周辺を焼損する火災が発生した。

【事故の原因】

電気掃除機に取り付けられていた非純正品のバッテリーの制御機能が不十分だったため、過充電となって異常発熱し、焼損したものと考えられる。

【SAFE-Lite 検索キーワード例】

非純正、バッテリー

(パソコンの非純正バッテリーから発火)

事故発生年月日 2018年5月(愛知県、20歳代・男性、拡大被害)

【事故の内容】

インターネットで購入した中古品のノートパソコンを充電中、バッテリーパックから出火し、周辺を焼損した。

【事故の原因】

ノートパソコンに取り付けられていた非純正品のバッテリーパック内のセル6本のうち1本が内部ショートして異常発熱し、焼損したものと考えられる

【SAFE-Lite 検索キーワード例】

非純正、バッテリー



ノートパソコンの非純正バッテリーが発火

中古品の気を付けるポイント③

○非純正バッテリーが製品に取り付けられているかどうかを確認する。

リチウムイオンバッテリー搭載製品を入手するときは、スマートフォンのように内部のバッテリーが確認できない製品もありますので、非純正バッテリーの取り付けの有無を提供者に確認するようにしてください。リチウムイオンバッテリーは、バッテリーや搭載製品本体に備えられている制御機能で安全に動作するように設計されていますが、非純正バッテリーには、制御機能が不十分であったり、正常に働かなかったりするものもあり、事故に至るおそれがあります。また、非純正バッテリーのなかには品質の悪い部品が使用された製品が確認されています。

非純正バッテリーの使用について、使用中止などの注意喚起を行っている事業者や、非純正バッテリーの取り付けを禁止している事業者などもあります。入手した製品に非純正バッテリーが取り付けられていると分かった場合は、製品本体の事業者のホームページを確認するなどして、事故が発生している製品でないか、非純正バッテリーの取り付けが禁止されていないかを確認してください。

また、非純正バッテリーを取り付けた製品を提供する場合は、その情報を伝えるようにしてください。



電気掃除機用バッテリーパックの表示例（左：非純正バッテリー、右：純正バッテリー）



電動工具用バッテリーパックの表示例（左：非純正バッテリー、右：純正バッテリー）

1-2. 4. 経年劣化など不具合のある製品による事故

(換気扇の内部部品が劣化し発火)

事故発生年月日 2016年7月(京都府、40歳代・男性、製品破損)

【事故の内容】

中古住宅に設置されていた換気扇付近から出火し、周辺を焼損する火災が発生した。

【事故の原因】

長期使用(16年)により、電子部品が絶縁劣化し、発火したものと考えられる。
なお、現在の使用者が使用開始してから約2年が経過していた。

【SAFE-Lite 検索キーワード例】

長期使用

(介護ベッドの電源プラグが破損して発火)

事故発生年月日 2018年7月(神奈川県、年齢・性別不明、拡大被害)

【事故の内容】

中古品の介護ベッドの電源プラグ部を焼損し、周辺を汚損する火災が発生した。

【事故の原因】

介護ベッドの電源プラグの刃に過度な力が加わって折損したため、折損箇所ですパークが発生し、徐々に周辺の樹脂が炭化し、トラック(電気の通り道)が生成され、異常発熱して焼損したものと考えられる。

なお、取扱説明書には、「感電や火災の原因となるため電源プラグは定期的に点検する。」旨、記載されている。

また、使用者は普段介護ベッドの操作を行っておらず、いつプラグが破損したのかは不明であった。

【SAFE-Lite 検索キーワード例】

電源プラグ、栓刃、破損



破損したプラグから発火

中古品の気を付けるポイント④

○製造時から長期間経過している製品に注意する。不具合のある製品は使用しない。

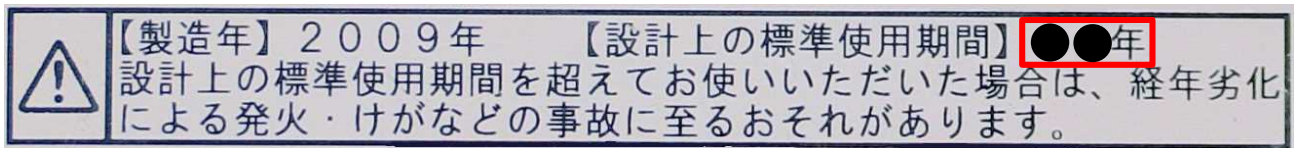
製造時から長期間経過した製品は、外観に異常が無くても製品の動作に不具合が生じているおそれがあります。特に、中古品の場合、入手前の使用方法や使用期間が分からない場合があるため注意が必要です。製品に破損や変形などの外観に異常があるものや、動作に不具合が認められた中古品は使用しないでください。

また、製造時から長期間が経過して、部品の在庫が無いなどで修理ができない古い製品は、部品が劣化するなどして火災のおそれがあるため、入手前に製品の製造年をきちんと確認しましょう。

○長期使用製品安全表示制度の表示を確認する。

平成 21 年 4 月以降に製造または輸入されたエアコン、扇風機、電気洗濯機（乾燥装置を有するものを除く）、換気扇、ブラウン管テレビの 5 品目の製品においては、「長期使用製品安全表示制度」が設けられており、「製造年」、「設計上の標準使用期間」が表示されています。対象製品の中古品を入手する際は、設計標準使用期間を超過していないかを確認してください。

設計標準使用期間を過ぎた製品については、使用時に異常がないかを確認してください。



長期使用製品安全表示制度 表示イメージ

○異常を感じたらすぐに使用を中止する。

長期使用製品安全表示制度の対象製品以外においても、中古品の使用には十分に注意しましょう。中古品の使用時には異音や異臭などのわずかな異常も見逃さないでください。少しでも異常を感じたら使用を中止してください。

1-2.5. 消費者による誤った設置・工事による事故

(ガス瞬間湯沸器の誤った接続でガスに引火)

事故発生年月日 2019 年 1 月（香川県、40 歳代・女性、拡大被害）

【事故の内容】

譲渡されたガス瞬間湯沸器のガス接続部付近から出火し、本体及び周辺を焼損する火災が発生した。

【事故の原因】

使用者がガス接続工事を行った際に、ガス漏れ防止用のパッキンを使用しなかったため、接続部からガスが漏れ、漏れたガスに引火して焼損したものと考えられる。

なお、取扱説明書には「ガス接続工事はガス供給業者又は有資格者に依頼する。」旨、記載されている。

【SAFE-Lite 検索キーワード例】

ガス給湯器、資格



ガス瞬間湯沸器のガス接続部から漏れたガスに引火

(エアコンの配線を途中接続し発火)

事故発生年月日 2016 年 1 月（大阪府、30 歳代・男性、製品破損）

【事故の内容】

使用中のエアコン室外機の内外連絡配線を焼損する火災が発生した。

【事故の原因】

使用者の知人が移設した際に内外連絡線が途中接続（継ぎ足し）されたため、途中接続部で接触不良が生じて異常発熱し、出火したものと考えられる。

【SAFE-Lite 検索キーワード例】

エアコン 途中接続



エアコン配線の途中接続部から発火

中古品の気を付けるポイント⑤

○ガス器具の設置はガス販売店か専門の工事業者に依頼する。

ガス器具の設置については法令などによってガス管の接続方法が定められています。誤った接続をした場合やガスの種類に応じた専門の資格を持たない方が設置した場合には、ガス漏れなど思わぬ事故につながるおそれがあります。ガス器具を設置するにはガス販売店か専門の工事業者に設置を依頼してください。

一般社団法人日本ガス石油機器工業会（JGKA）と連携し、ガス瞬間湯沸器に関して、消費者による設置に関する注意喚起動画を作成しました。

<https://www.nite.go.jp/jiko/chuikanki/poster/nenshou/2021102802.html>

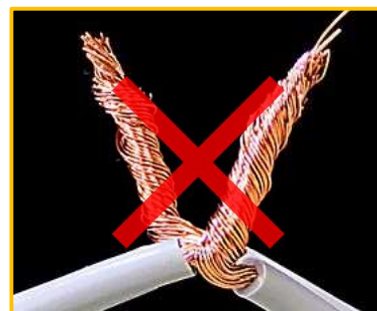
協力：一般社団法人日本ガス石油機器工業会（JGKA）

○ガス器具の「ガス種」を必ず確認する。

ガス器具には、LP ガス用と都市ガス用があります。ガスの種類が一致しないと不完全燃焼による一酸化炭素中毒になったり、異常燃焼で大きくなった炎でやけどを負ったり、機器が故障するおそれがあります。入手前に必ずガスの種類を確認し、使用しているガスの種類に合った器具を選んでください。

○電気工事を伴う際には有資格者が作業を行う。

エアコンなどの設置に電気工事を伴う際には、必ず電気工事の資格を持った方が作業を行ってください。設置の際に電源コードのねじり接続^{※7}や室内機と室外機を接続する室内外ユニット間配線の途中接続などを行うと、接続不良によって、発煙・発火するおそれがあります。また、製品によっては、アース線の接続が必要です。湿気の多い場所や水気のある場所では、万一の故障や漏電の時に、感電のおそれを防ぐためアースは確実に取り付けてください。



（写真）ねじり接続

（※7）接続器具などを使用せずに、電源コードの芯線をねじり合わせることで別のコードと芯線同士をつなぐ方法。

1-2. 6. 誤使用と気付かずに使用していたことによる事故

(乳幼児用いすの腰ベルトの誤った取り付けによる事故)

事故発生年月日 2019年1月(神奈川県、10歳未満・女性、死亡)

【事故の内容】

譲渡された乳幼児用いすの腰ベルトに挟まった状態で幼児が発見され、病院に搬送後、死亡が確認された。

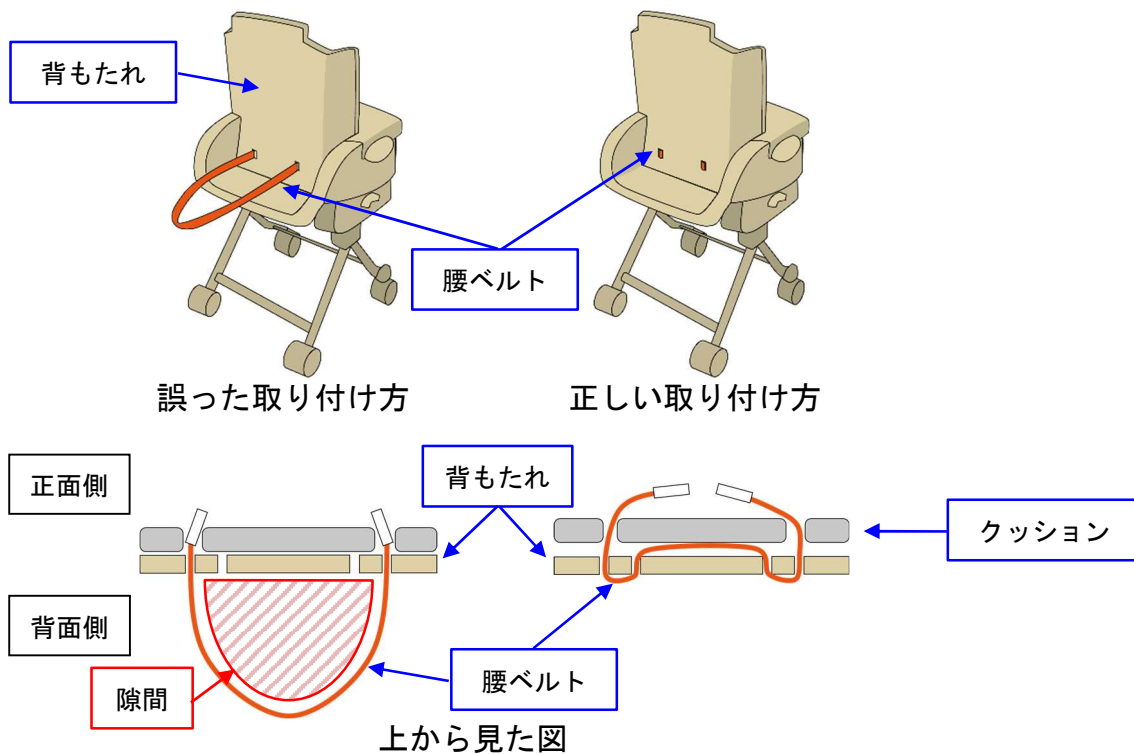
【事故の原因】

背もたれに腰ベルトが正しく取り付けられていない状態で使用されていたため、ベルトが背もたれの背面側に露出してループ状になり、そのベルトの輪の中に頭を通した幼児の頸部がベルトによって圧迫され、事故に至ったものと考えられる。

また、使用者は、譲渡後にベルトを取り外したことはなかった。

【SAFE-Lite 検索キーワード例】

乳幼児用いす、組立説明書



中古品の気を付けるポイント⑥

○取扱説明書を入手して使用方法や組立が良好か、手入れが必要な状態でないかを確認する。

中古品を入手する際は、取扱説明書を同時に入手し、使用方法や付属品を含めた組立が良好か、掃除や消耗品の交換などの手入れが必要な状態でないかをきちんと確認してください。使用方法を正しく把握していなかったり、組立が不適切だったり、ほこりが詰まっていたり、消耗品が過剰に消耗していたりすることで思わぬ事故につながるおそれがあります。

また、消費者自身が設置する製品では、別冊の取付設置説明書等が付属している場合があります。取扱説明書に「取付設置説明書別添付」などと書いてある機器は、取付設置説明書も入手しましょう。

取扱説明書等を入手できなかった場合は、製品を扱っている事業者のホームページなどから取扱説明書や使用方法の情報を集め、正しい使い方を把握しましょう。不明な点があれば、事業者などに確認しましょう。

事件事例を確認

○過去にどのような事故が発生しているか確認する。

NITE はホームページで製品事故に特化したウェブ検索ツール「SAFE-Lite (セーフ・ライト)」のサービスを行っています。製品の利用者が慣れ親しんだ名称で製品名を入力すると、その名称(製品)に関連する事故の情報が表示されます。

また、事件事例の【SAFE-Lite 検索キーワード例】で例示されたキーワードで検索することで、類似した事故が表示されます。



<https://www.nite.go.jp/jiko/jikoohou/safe-lite.html>

お問い合わせ先

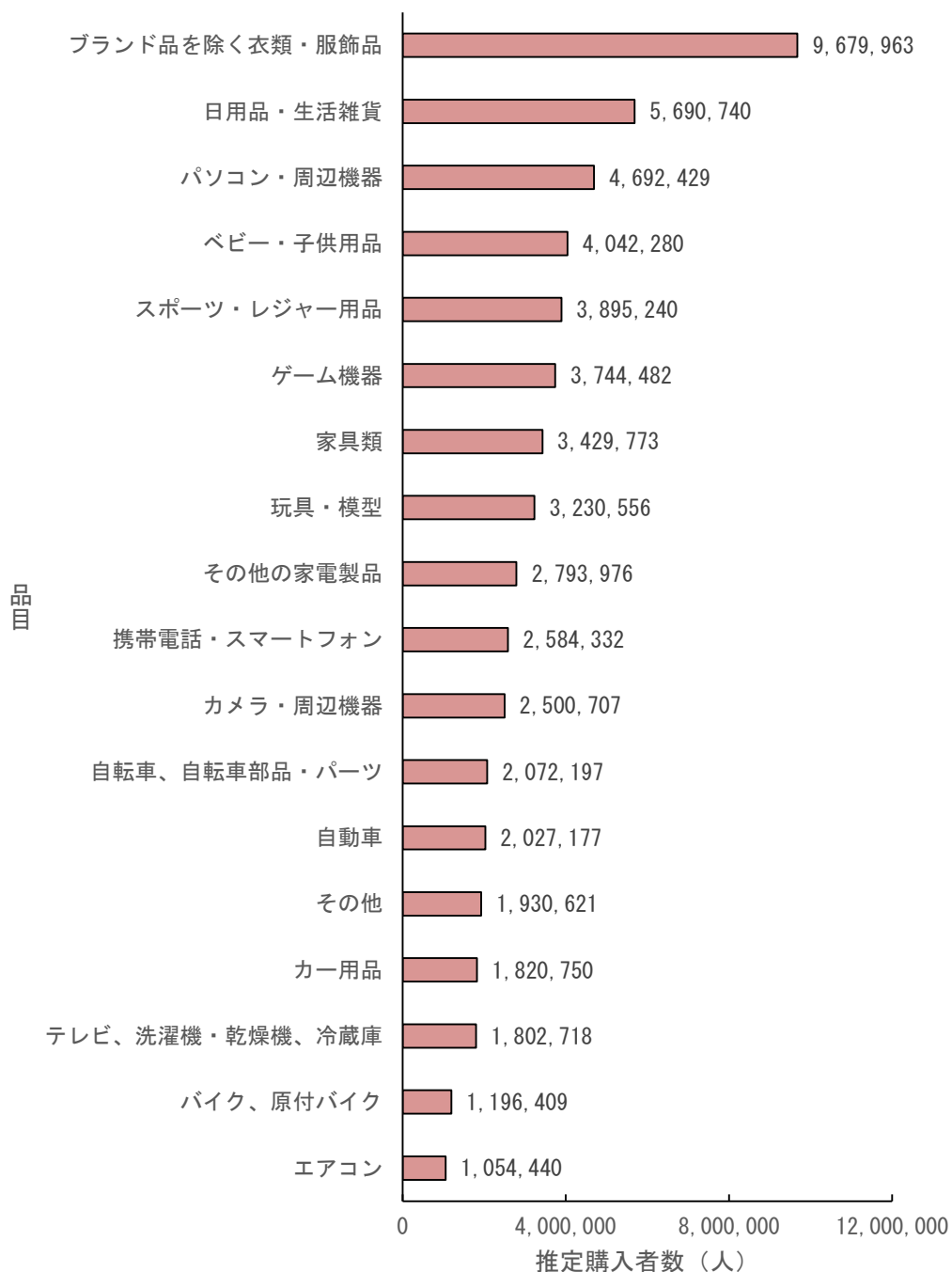
独立行政法人製品評価技術基盤機構 製品安全センター 所長 古田 英雄
担当者 製品安全広報課 山崎、佐藤、岡田

Mail : ps@nite.go.jp

Tel : 06-6612-2066

品目別の中古品購入者数の推計

以下に、品目別※の中古品購入者数の推計値を示します。



(※) 書籍、ソフト・メディア類、ブランド品を除く

出典：環境省 平成30年度リユース市場規模調査報告書「図表105 品目別の出現率・推計購入者数（属性を考慮した推計）」